

子供たちへのフナ教育

サージ・カヒリ・キング (2001)

時折私は、特に子供向けに本やコースが企画されたり提供されていますか、またはその様な事を考えていますか、と尋ねられます。

第一に私は、もし誰かがその様なことするならば素晴らしいと思います(誰がその様なことをしているかを皆さんに伝えられる様に、どうぞ私に知らせてください)。次に、私自身はその様なことはいたしません。なぜなら、フナ(Huna)はとても簡単なので、どんな年齢の理解力の人でも理解し応用できるからです。実際、ほとんどの場合、大人に対して教えるときは実際よりも複雑にして、彼らが受け入れるようにしているのです。しばしば、フナが本来の簡単さで提示されると、科学的な訓練や知的な条件づけがされている人々は探求する値がないとして退ける傾向があるからです。

両親が私に、子供はコースに参加出来るかと尋ねたら、その子に興味が十分あり、訓練や議論、そして質問に参加する限り、私は常に承諾します。私のフナ・ワークショップに参加した最年少者は5歳半の男の子です。その子は非常に生き生きとした体験をして、良い質問をし、優れた生徒の一人です。唯一私が彼に対し許可しなくてはならなかったのは、母親の椅子の下で静かに前後に体を揺するという瞑想方法を彼が用いることだけでした。

私個人は(両親の何人かはそうではありませんが)、子供に特別コースを設定する必要を見出せません。子供も大人と同様に基本的な問題(愛情、恐れ、怒り、成功等)と、より幸せにより効果的に在りたい、という願いを抱えています。子供が変えたい何かを持ちあわせている限り、フナへの準備は整っています。

当然、聴衆に表現方法を合わせるのは大切です。数名の子供を含め、大人が大半であるグループを教える時は、子供たちが退屈しないように、知的な論議は短めにして、子供が関連づけられる実例を含めるのを忘れないようにします。数名の大人を含め、子供が大半であるグループを教える場合は、大人が飽きない様、大人が関連づけられる実例を用い、知的な見解を一、二点投げかけます。どちらにせよ関心ある事だけを学ぶのだ、という考え方を私はするので、大人にも子供にも望む様に出入りする自由を与えます。教師としての私の仕事は、全ての参加者にとって出来るだけ興味深いものにする事だけで、それにもとらわれてはいません。

もし子供のグループに(フナの)七原則を教えるとしたら、少し違った言い回しにしましょう。言葉自体に聖なる何かがあるのではないので、概念を自分に引き寄せることが出来るなら、フナの原則の精神に沿うのです。

ですから、子供たちには違った言い回しでフナの七原則を述べるでしょう。

1. 世界はあなたが考える様にある。あなたがどの様に感じるかは、あなたがどの様に考えるか次第なのです。
2. 限りというものはない。全てのものがあなたの言うことを聴いていて、あなたが感じることを感じているのです。
3. エネルギーは注意が向く方へ流れる。あなたが何を欲しいかということの方が、何を欲しくないかよりも大切です。
4. 今が力の時である。物事は昨日起りしませんし、明日にも起りしません。今だけ起こるのです。
5. 愛するとは共に幸せに生きること。幸せであればある程、あなたはラッキーです。
6. 全ての力は内から出る。どんな時でもあなたに出来る事が何か、あります。
7. 効力は真実の尺度である。いつもうまくいくことをしなさい(あなたがしている事がうまくいかないなら、何か違う事をしなさい。)

これらの言い回しは提案にすぎません。ある状況や、あるグループでは、違う言い回しに変えるかもしれません。

子供は(大人と同様に)想像に対し、とても敏感です。それで、何かを説明したり、瞑想や内的経験を導く場合には、内容が感覚的に豊かで、具体的で、想像しやすい言葉を用いるのが重要です。抽象的であればある程、印象が薄くなります。

私が聴いたことのあるガイド瞑想の一節を例にしてみます。「誰もが幸せな素晴らしい場所にあなたは居ます。」意味は通じるのですが、全く何も想起しません。もっと想起させる他の言い方があります。「あなたは今、綺麗な花に囲まれた滝の側の、鳥がさえずり、たくさんの子供たちが遊び笑っている公園に居ます。」ここでのポイントは、単なる場所や出来事ではなく、特定の場所や出来事を記述することです。

子供たち(ある種の大人も)を聴衆にして、少し大げさなジェスチャーを交えるのは良いアイデアです。近代社会においては、たいていの大人は長年、教室では静かに座っている様しっかり躡けられています。しかしフナノの学びにおいては、意識と体の両方が関わっている方がより早く、そしてより多く記憶されます。子供たちはこのことを本能的に知っています。子供が聴衆の中にいる時、クラス全体に害が及ばない限り、私は何でもしたい様にさせます。長年の経験で私は、ある人々は歩いたり、横になったり、私から眼をそらせていたり、ただ体をリズムカルに揺る方が、よく学ぶのを知りました。子供は大人よりもこの傾向があるので、私は出来るだけ大目に見ます。

子供だという理由で、違った方法で子供が教育を受ける必要はありません。年齢に関係なく全ての人に相応しい方法で、その人の言語レベル、関心、能力に見合った教育が為されるべきです。

翻訳 M. Hayashi (2005)